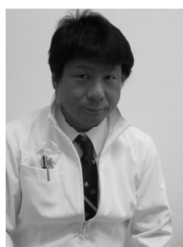


平成 29 年度 学校歯科保険連絡協議会 講習会事前抄録
「フッ素の応用と安全性について」



日本の12歳児におけるDMFT歯数は0.84本(平成28年度学校保健統計調査)となり、ますます齲蝕は減少し続けております。その要因として考えられるのは、歯磨剤をはじめとするフッ素の応用があげられます。幼稚園、学校等においてはフッ素塗布やフッ素洗口などが応用され、近年の市場ではフッ素洗口剤やフッ素入りのガムも購入できるようになっています。海外においては、食品や生活用水にもフッ化物が添加されていたり、さらには内服としてフッ素薬が処方されることもあります。

しかしながら、フッ化物による事故、事件などが起こり危険なイメージがあることも事実です。またインターネットやスマートフォンなどの普及により多くの情報が簡単に手に入る中、フッ素ついて誤った情報が多くみられます。フッ化物を取り扱う関係者として、エビデンスに基づいたその効果と応用方法について知り、それを周知することはとても重要なことと考えます。

子供たちの健康を守るため日々ご尽力いただいている学校関係者の先生方に少しでもお役に立てれば幸いです。

河村 泰治 (かわむら やすはる)

略歴

- 昭和 44 年 大阪市阿倍野区生まれ
- 平成 6 年 大阪歯科大学歯学部卒業
- 13 年 河村歯科医院開設
- 21 年 大阪歯科大学口腔衛生学歯学博士
- 26 年 新大阪歯科衛生士専門学校講師 (口腔衛生学)

所属

日本・大阪府・阿倍野歯科医師会
学校歯科医会(大阪市立工芸・第二工芸高等学校校医 平成19年就任)、
グレース幼稚園園医、日本口腔衛生学会、日本歯科保存学会、
大阪歯科学会、スタディーグループ日曜会